

7. 目標値

本計画は、目標年度をおおむね 20 年後の 2037 年度とする長期的な計画です。そのため、本計画に位置付けた将来都市像「まとまりがある、持続可能で活力あるまちを作る」を実現するために実施する各種施策の進捗状況やその効果等を見極め、より効果的に計画を実現していくため、以下の目標値を設定します。

(1) 方針 1 に対応する目標

方針 1	まとまりがあるまちを作る
指標	居住誘導区域内の人口密度
方針と指標の関連性	市街地の低密化を抑制し、まとまりがあるまちを維持する。
定義	居住誘導区域が含まれる都市計画基礎調査区内の人口密度
目標値の設定根拠	人口減少下にあっても、居住を誘導することで、現状の人口密度を維持する。

従前値	目標値	
2015 年（平成 27 年）	2024 年度	2037 年度
37.6 人/ha	37.6 人/ha	37.6 人/ha

(2) 方針 2 に対応する目標

方針 2	限られた公共交通と生活サービス施設を効率よく利用する
指標	市内循環線の年間利用者数
方針と指標の関連性	基幹公共交通軸である市内循環線の強化により、限られた公共交通と生活サービス施設を効率よく利用できるようになり、利用者が増加する。
定義	市内循環線(右回り・左回り)の年間利用者数
目標値の設定根拠	方針 1 で居住誘導区域の人口密度を維持することから、市内循環線の利用者数も現状及び第 5 次藤岡市総合計画の目標値と同規模を維持する。

従前値	目標値	
2016 年（平成 28 年）	2024 年度	2037 年度
24,161 人	24,000 人	24,000 人

(3) 方針3に対応する目標

方針3	活力あるまちを作る
指標	日常の買い物の便利さに対する満足度
方針と指標の関連性	都市機能誘導区域への生活サービス施設の立地誘導により、活力あるまちを作る。誰もが持続的に生活サービスの享受ができるようになり、市民満足度が維持される。
定義	藤岡市が実施する市民アンケート調査のうち、「日常の買い物の便利さ」に対する市の現状評価（全体、満足度）の評価点
目標値の設定根拠	公共交通の利便性向上、まちなかへの居住誘導・都市機能の誘導を組み合わせ、誰もが生活サービスを享受できることを目指す。

従前値	目標値	
2017年（平成29年）	2024年度	2037年度
0.79点	0.79点	0.79点

(4) 方針4に対応する目標

方針4	持続可能なまちを作る
指標	歩道のバリアフリー化率
方針と指標の関連性	持続可能なまちを作るため、居住誘導区域内の歩道のバリアフリー化を進める。
定義	居住誘導区域内のバリアフリー済み区間延長をバリアフリー対応歩道区間延長で除した割合
目標値の設定根拠	藤岡市街地地区都市再生整備計画事業では年1%でバリアフリー化事業を実施した。今後は、国の支援措置を除いた年0.6%のスピードを進める。

従前値	目標値	
2016年（平成28年）	2024年度	2037年度
60.2%	65.0%	72.8%